



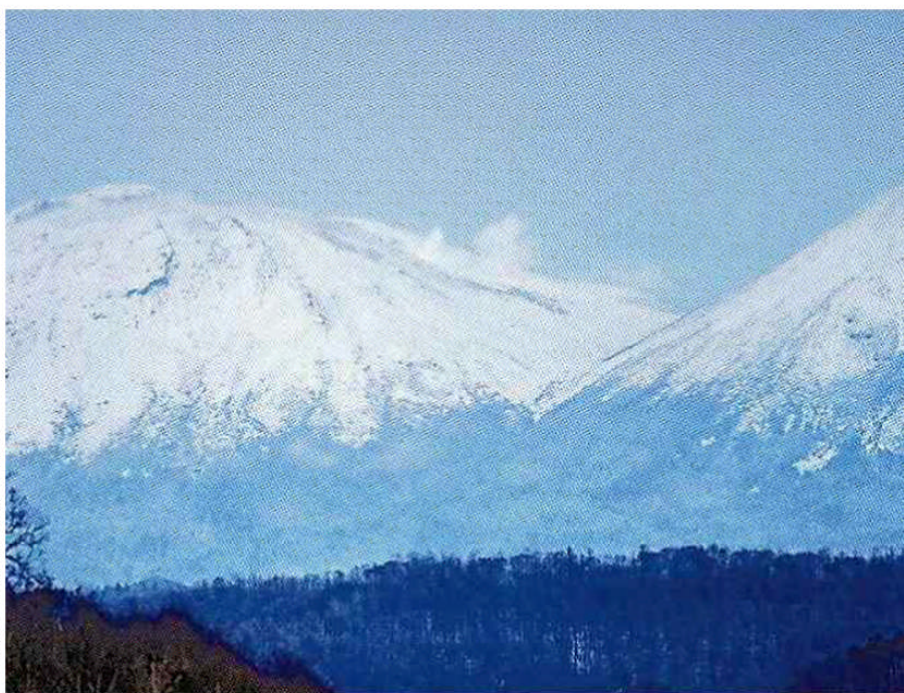
年 組 名前

道新でワークシート

いちから十勝



噴火警戒レベルが1から2に上がった雌阿寒岳(北波智史撮影)



釧路市と釧路管内白糠町、足寄町の境目にある雌阿寒岳の噴火警戒レベルが3年ぶりに1から2に引き上げられました。

噴火警戒レベルは気象庁が日本にある活火山の噴火する可能性を5段階で評価したものです。活火山は過去1方

年以内に噴火したことがある火山と、現在マグマの動きなどが活発な火山を指します。気象庁は十勝管内では雌阿寒岳と十勝岳の二つの活火山で2008年からマグマの活動を示す火山性微動や、火山性地震の回数を常に監視しています。雌阿寒岳の場合、

噴火警戒レベルって何？

5段階で可能性評価

火口付近で起きた地震の回数
は今年20日に28回でしたが、
23日には675回と25倍近く
増えるなど、活動が活発にな
ったため、レベルを引き上げ
ました。

レベル1が最も低く「活火山であることに留意」で済むのに対し、レベル2は「火口周辺規制」となり、火口周辺には立ち入らないよう求められます。足寄町でも2カ所ある登山道の入り口に注意を呼びかける看板を設置しました。

レベルが2に上がったからといって、すぐに噴火するとは限りません。雌阿寒岳の場合、15年7月にもレベル2に引き上げられ、4カ月後の11月には1に戻りました。

一方で、14年に噴火した御嶽山(長野県、岐阜県)のことも忘れてはいけません。噴石や熱風で63人もの死者・行方不明者を出し、戦後最悪の火山災害になりました。当時、御嶽山の噴火警戒レベルは1で、突然噴火したのです。

日本は世界でも有数の火山の多い国です。普段から火山のことを学び、万が一に備えることが大切です。

(石垣総静)

2018年11月30日夕刊帯広・十勝版(記事は再編集しています)

- ①見出しにある「噴火警戒レベル」とは、どのようなものでしょうか。
- ②雌阿寒岳が噴火警戒レベルが1から2に上がった理由を、25文字以内でまとめましょう。
- ③記者は最後の段落で、「普段から火山のことを学び、万が一に備えることが大切です」と述べていますが、それはなぜでしょう。